

国産材の需要拡大を図るための森林整備加速化・林業再生基金の拡充

政策提言先 農林水産省、林野庁

政策提言の要旨

全国の森林の成熟度が高まり、徐々に生産体制が整いつつある中で木材の供給圧力は高まっているものの、需要の減少と外国産材との競争により原木価格は低迷しています。

成熟した森林資源を活かした林業・木材産業の振興により木材自給率50%を達成するためには、川上から川下まで一体的な強化を図る必要がありますが、中でも需要拡大策は当面の最大課題であり、国として総合的な対策を強力に推進するよう提言します。

【政策提言の具体的内容】

成熟しつつある我が国の人工林資源について、製材品から木質バイオマスまで幅広く利用する仕組みを構築し、林業・木材産業の体質を強化するため、国の補正予算により「森林整備加速化・林業再生基金」を拡充し、次の事項を盛り込んだ総合的な需要拡大策を講ずることを提言します。

1 製材品の需要拡大

- (1) 地域材による公共建築物等の整備への支援
- (2) 地域材による木造住宅建築等への支援（ポイント制度の導入等）
- (3) CLTによる大型木造建築物の整備など木材の新たな需要を開拓しようとする先導的取組みへの支援

2 木質バイオマスのエネルギー利用の拡大

- (1) 木質バイオマス発電施設及び関連施設の整備に対する支援
- (2) 木質バイオマスの熱利用のためのボイラー等施設の整備に対する支援
- (3) 木質バイオマスの低コスト収集システムの構築と関連施設・設備の整備に対する支援

【政策提言の理由】

我が国の人工林は、戦後に集中的に造林されたスギ・ヒノキ等が伐期を迎え、かつてない豊富な資源量となっています。

また、林道や作業道などの路網の整備、高性能林業機械の導入、集約化施業の推進などにより、徐々にではあるものの生産性は向上し、国産材の供給圧力は高まりつつあります。

一方、需要の面では、人口減少による住宅着工数の減少や住宅建築方法の変化、また、昨今の円高・ユーロ安により外材に対する競争力低下も相まって、縮小傾向にあります。こうした需要の減少の中で、特に昨年は、増産が進む原木と木材加工・利用部門の需給のギャップから、ヒノキを中心に木材価格が急落する局面がありました。

このような国産材需要の減少と原木価格の低迷は、構造的なものとなっており、これまでの国産スギ、ヒノキ等の利用方法だけでは、需要の先細りは避けられず、国の森林・林業再生プランに掲げる木材自給率50%以上の目標を達成することが困難になるばかりか、我が国の林業・木材産業の未来はないものと思われまます。

つきましては、国内における製材品としての利用拡大のほか、木質バイオマスの飛躍的な利用拡大など、国として抜本的な需要拡大策に取り組み、増産が進む原木との需給バランスの均衡を図ることで、木材価格の安定に繋げて、持続的な林業・木材産業の振興を図るための取組が急務となっています。